

当院の心臓カテーテル検査における検査技師の役割

◎新谷 朋己¹⁾

白山石川医療企業団 公立松任石川中央病院¹⁾

はじめに 2024年4月から医師の働き方改革がスタートし、昨今臨床検査技師においても「医師の働き方改革を進める為のタスク・シフト/シェア」として日本臨床検査技師会(以下日臨技)からの報告や指定講習会の実施などが継続して行われている。2019年に現行制度下で実施可能な業務として選定された18項目(表1-1 現行の下で 医師から他の療関係職種へのタスク・シフト/シェアが可能な業務の具体例)の①には「心臓・血管カテーテル検査、治療における直接侵襲を伴わない検査装置の操作」と記載されている。当院では心臓・血管カテーテル検査・治療(以下心カテ)における業務を以前より携わっており、カテーテルチームの一員として活動している。本シンポジウムでは当院の以前から行われている心カテでの検査技師の役割と新人への教育を紹介する。

「経緯」当院では平成元年より心カテ業務に従事することとなり、現在、生理検査担当技師10人で行っている。心カテには検査技師を含め医師、看護師、放射線技師、臨床工学技士の5職種が携わり冠動脈や上・下肢の末梢血管再建、アブレーションやペースメーカー植え込みなどの不整脈治療を行っている。

「業務内容」検査技師は主に術中の心電図・動脈圧・SpO₂などのバイタルのモニタリングを担当している。臨床工学技士との共有業務として血管内超音波(IVUS/OCT)などのイメージングデバイスでの操作・解析・評価やEPS・アブレーション治療での心内心電図の解析・評価などがあり、現行制度範囲内で業務の共有・分担を行っている。

「教育」当院の心カテ業務習得までの流れ

1. 生理検査室内のルーチン業務の習得(心電図、呼吸機能検査、血圧脈波など)
2. 事前学習(検査や治療目的などチェックリストを作成し専任技師が評価)の実施
3. 院内BLS研修の受講(緊急時の胸骨圧迫などの救命処置知識・技術の習得)
4. 先輩技師と心カテ業務研修開始(約2か月間)
5. チェックリストの進行・達成度に応じて独り立ち(ルーチン業務を担当する)
6. 緊急時の呼び出し担当へ

「問題点」

1) 技師間で対応できる業務に差がある(カテ中のエコー評価など)

改善策 個々のスキルアップ(研修会参加・資格取得)、エコーができる多職種との連携強化

2) 緊急時呼び出しの偏り(休日・祝日の日中のみ当番制としている)

改善策 呼び出し回数が偏らないように検査当直日誌内に呼び出し表を作成、均等な呼出しとなるよう周知している

「資格取得」心血管インターベンション技師(以下ITE)、認定心電図専門士、超音波検査士、植込み型心臓不整脈デバイス認定士、心不全療養指導士など

*生理検査業務にも役立つ資格も多いため資格取得を目指している

「まとめ」タスク・シフト/シェアによる現行制度下で実施可能な業務として以前より当院では臨床検査技師が心カテ業務に携わっている。心カテにおいて心電図は必須の知識であり、検査技師がチームの一員として携わることで心電図変化を見逃さず他職種と連携をとることで医師が治療を円滑に進められることが期待できる。